

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

## インドネシアと宮城を繋ぐ 国際交流員



アニコ ムティハ ジュリアナ バトゥバラ さん  
インドネシア共和国出身  
宮城県国際交流員  
みやぎ外国人相談センター相談員  
仙台市在住

宮城県は2023年7月にインドネシア共和国(以下、インドネシア)との間に人材確保に関する覚書を締結しました。現在県内には2,419人(※)のインドネシア人が在住しています。今後もインドネシアからの人材の受け入れが見込まれる中、今年10月より県の国際交流員として勤務を開始したアニコさんにお話を伺いました。  
(※2024年6月末現在 出入国在留管理庁在留外国人統計より)

—宮城県の国際交流員としてどのようなお仕事を担当されるのですか。

インドネシア語の通訳・翻訳といった業務が中心ですが、現在は来年度大崎市に開校する「おおさき日本語学校」に入学予定の学生からの提出書類の翻訳のサポートなどもしています。その他、宮城県内企業・団体との人材マッチングを図るジョブフェアに関して、現地の送り出し機関の情報を調べたりといった業務も行っています。今後インドネシアから来客があった場合や、現地に行って事業を実施する場合は、私が通訳業務も担当します。

—日本に来るまでのことを教えてください。

私はスマトラ島北部で9人兄弟の8番目として生まれました。兄弟のうち、6人が男の子だったこともあり、よく兄弟と忍者ごっこをして遊んでいるような、負けず嫌いで活発な女の子でした。大学では経済学を専攻し、卒業後は専門学校で職員として働いていました。そんな時に日本人の今の夫と知り合い、日本に移り住むこととなりました。

—初めての来日から始まった日本での生活はどのようなものでしたか。

初めて住むことになった仙台で最初に直面したのが言葉の壁でした。特に漢字にはとても苦労しました。MIA日本語講座で日本語を学び、クラスメイトにも恵まれ毎日楽しかったです。その後、夫の仕事の都合で青森県弘前市に転居して、長女を出産しました。妊娠中は雪が多いため家からなかなか出られず、孤独を感じることもあり、インドネシアでは、出産して退院すると家族が大勢集まりお



国際交流員としての仕事風景

祝いの食事をするのが一般的なのですが、日本ではそのようにはいわず、退院して自宅で赤ちゃんを二人っきりになった時、泣いてしまいました。

—日本での子育てを振り返ってみて何か思うことはありますか。

初めての、そして異国での子育ては大変なことも多くありました。インドネシアでは、子どもの数が多く、両親共働きが一般的なこともあり、年の離れた兄弟など家族の手を借りて子どもを育てることが多いのですが、日本では親が一人か二人の子どもに、お金と手間をかけて大事に育てています。その文化の違いに戸惑いました。また、日本の子育ての“普通”の基準がよくわからず困ることも多く、その都度夫に聞いて一緒に考えながら対応しました。娘が幼稚園の時は色々調べてキャラ弁などにも挑戦しました。帰ってきた娘が友だちとお弁当の見せ合いっこをしたとか、先生から「色がきれいだね」と褒められたと笑顔で話してくれると、私も嬉しかったです。

—アニコさんは「みやぎ外国人相談センター」の相談員としてMIAで勤務する他、警察や弁護士の通訳、子どもの支援なども経験されていますね。

今までインドネシア人に関わる様々な場面で、通訳としてお手伝いをしてきました。インドネシアは人口の87%がイスラム教徒であるため、単に意思疎通の支援をするだけでなく、食事やお祈りに対する配慮が必要なことも伝えるようにしています。印象に残っているのは、小学校での学習支援です。私の支援の様子を日本人の子が見ていたようで、「大きくなったらばくも先生みたいになりたいな!」と声をかけてくれたことがありました。私としては母語を使ってお手伝いをしていただけという認識だったのですが、それを他の子がしっかり見てくれたことが嬉しかったです。

## 「みやぎの多文化な人」の続き

—これから県内に暮らすインドネシア人は更に増えそうですね。今後の仕事やプライベートで取り組んでみたいことはありますか。

県とインドネシア政府との間で覚書が締結されたと聞いた時、インドネシア人が増えることは嬉しいと感じた半面、受け入れる側にお祈りの場所を増やすなどの宗教的な配慮がより必要になってくるのではないかと思います。まさか自分が仕事として関わることになるとは思ってもやらず、今までは直接人と接する仕事が多かったこともあり、仕事を始める前は少し不安もありました。国際交流員の仕事は自分で考えてリサーチしたり、周りの人

と協力したりして進めることが求められます。まずはこれまでの経験を活かしつつ、チームワークを大切に、これから来るインドネシア人のお役に立てるよう頑張りたいです。それから、これからも直接インドネシア人に関わる活動もしたいという気持ちがあります。2年ほど前からNPOの企画で、気仙沼のインドネシア人と地域の人が交流する取り組みに参加していて、通訳をしたり、自国の料理を作ったりもしました。今後も日本に暮らすインドネシア人と関係する活動には積極的に参加し、人と人を繋ぐことを続けていけたらと考えています。

## 「みやぎ外国人相談センター」から

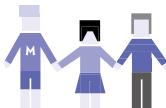
**Q** 交通事故に遭い怪我をしたのですが、相手側の保険会社から十分な補償が受けられていないと感じています。法律的なアドバイスを欲しいです。

**A** 公益財団法人日弁連交通事故相談センターで、自動車・二輪車による交通事故の民事上の法律相談をしたり、示談を手伝ってもらうことができます。

### 公益財団法人日弁連交通事故相談センターとは

5回まで無料で弁護士に相談することができます。宮城県内では仙台、古川、石巻の3か所で面接相談が可能です。詳しい情報や予約方法は下記URLをご覧ください。

URL:<https://n-tacc.or.jp/> (日本語のみ)



## シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



### 第14回 宮城県貞山高等学校 教諭 柴志保さん

#### 遠隔授業による日本語指導について

本校では昨年度より、外国にルーツをもつ生徒を対象に、日本語の授業を開講しています。また、宮城県として取り組んでいる教育DXの一環として、本校以外の県立高校に通う日本語指導が必要な生徒に対し、遠隔で日本語の授業を行っています。今年度、本校で日本語の授業を受けている生徒はおりませんが、他校の4名の生徒に日本語の遠隔授業を提供しています。レベル別に3クラスを開講し、うち1クラスは2校に同時配信して授業を行っています。

教える際は、他の教科の理解にもつながるように意識しています。文法を扱うときには、国語の授業に役立つように説明を加えます。例として、「つまり」はわかりやすく言い換えるときに使いますが、国語ではその後にまとめられた登場人物の思いや筆者の主張が問われることがあります。それを伝えることで、特に注意深く読むべきところがわかります。他にも災害大国の日本には欠かせない防災ガイドブックやハザードマップを教材にして、地理や防災を意識しながら、情報を得る練習をします。また、文化や風習などの知識も学びの土台になるため、大切にしています。「かぐや姫」の読み聞かせが、古典の「竹取物語」に繋がることもあります。様々なものを教材にして日本語の技能を高めていけるよう、日々試行錯誤しています。

来日して5年以上が経過していても、日常会話と学習における日本語はやはり別物です。特に、国語や歴史の分野は、小中学校に比べ漢字・語彙・文法も難しくなるうえ、文化的背景が必要なこともあり、苦手としている生徒が多い印象です。私の授業は日本語そのものを教えるため、各教科学習については生徒の所属校が支援しています。配布するプリントの漢字にはルビを振る、「やさしい日本語」を使うなど、生徒に寄り添って各教科の指導をされているようです。今後は、取り出し授業や教材のリライトなど、様々なアプローチで私もサポートしていけたらと思っています。

## 参加者募集 MIA日本語サポータービギナー研修会(オンライン)

この研修会は、日本語学習を希望する県内在住の外国人にマンツーマンで学習支援を行う「MIA日本語サポーター」の登録者、もしくはこれから登録を希望する方を対象に、外国人の日本語サポートに関する基礎的な知識等を提供し、活動時に役立てていただくことを目的として開催するものです。ご関心のある方は、ぜひ参加ください。

- 日時：2025年2月6日(木) 18:00～20:00 ■オンライン(Zoom)による開催
- 内容：1.外国語としての日本語 2.日本語学習教材について 3.やさしい日本語
- 参加費：無料 ■定員：20名(要申し込み)
- 申し込みは右記のGoogleフォームから URL: <https://mia-miyagi.jp/250216beginner> またはQRコードでアクセスできます。





## MIA日本語講座だより

10月からMIA日本語講座の第2期が始まりました！今期はパキスタンの方が多く、今回はその中の1人、ハムザ・マリクさんを紹介합니다。ハムザさんは2023年に来日し、MIAの日本語講座で初級1クラスと2クラスを修了。今は中級クラスで7人の仲間と学習に励み、「授業でクラスメイトの話す日本語を聞くのも勉強になる」と話してくれました。今期はパキスタンの人が増えたという話題になると、ハムザさん自身もMIAの日本語講座に通っていることを友達に話している、「その友達も(日本語講座のことを)友達に話します」とのこと。もしかしたらパキスタンコミュニティ内での「口コミ」がこの増加傾向に一役かってくれているのかもしれない。また、日本語学習については「行きました」「食べました」などMIAで習う話し方と「行った」「食べた」などハムザさんの日常生活で聞く会話の使い分けについても「言い方が変わって難しい」というお話も。その一方で「最初は授業で習ったことが全部分からなくても、家に帰って勉強すると少しずつ分かるようになる」と復習も欠かさず取り組み、学びの手応えを感じているようです。そんなハムザさんの当面の目標は、まずはしっかり日本人と日本語で話せるようになること。そして将来的にはお父さんと仕事をしたいという思いや、自分自身の会社を立ち上げること、パキスタンに日本語学校を作るといった目標も嬉しそうに教えてくれました。日々勉強に励むハムザさんの背景にはたくさんの大きな夢がありました。



中級クラスのあとインタビューに応じてくれたハムザさん

## 外国につながりを持つ子どもの応援ネットワーク「おむすび」

「おむすび」は、宮城県内の学校内外で外国につながる子どもの支援に関わる様々な人々をゆるーくつないで、むすぶ場です。宮城教育大学、外国人の子ども・サポートの会、仙台観光国際協会(SenTIA)、そしてMIAの連携によりスタートしました。月に1回、Zoomミーティングで1時間、毎回テーマを決めて、支援の事例を聞いたり、参加者それぞれの悩みや困りごとを共有したりしています。ともすると孤立しがちな支援者たちが自分の活動を振り返り、アイデアや勇気を得る場になればと願い続けてきました。早いもので3年が過ぎまもなく40回に達しますが、毎回40~50人の方が集まっています。興味関心のある方ならどなたでも参加OKです。次回の日時や内容は、MIAのHPにてご確認ください。

### 外国につながりをもつ子どもの 応援ネットワーク「おむすび」



「おむすび」は、宮城県内の学校や学校外で外国につながる子どもたちへの支援に関わっているみなさん同士をゆるーくつなげ、むすぶ場です。また、「おむすび」は、みなさんの抱える課題や指導の工夫などについて、情報を交換したり、学校外の支援者の支援を学校の先生の指導とどのようにむすんでいくかを考えたりする場です。支援に関わるみなさんが困っていることや悩みだけではなく、支援の工夫などを共有することによって、子どもたちへの支援をよりよくすることができるとも思います。また、悩みを聞いてもらう場所があるだけで、安心できるかもしれません。第36回の座談会を開催します。どなたでもお気軽にご参加ください。みなさんと一緒にネットワークを作っていきたいと考えています。

## オンラインで日本語学習支援を行っています！「MIAオンライン日本語講座」について

MIAでは、時間や場所の問題で地域の日本語教室に通うことが難しい方々を対象とした、「MIAオンライン日本語講座」に取り組んでいます(令和6年度地域日本語教育体制構築事業・宮城県委託事業)。

この講座は、初級1と初級2の2クラス編成で、国際交流基金の『いろいろ』を教材にした全10回のコースです。定員は15名でしたが、申し込みは20名を超え、現在は19名が学習中です。受講者は気仙沼、南三陸、栗原など、6つの市町から参加しており、外国人技能実習生や特定技能外国人の方々です。



金曜日の午後8時スタートという、遅い時間帯の開催です。受講者から「今日も残業でした」「明日も早朝から仕事です」という声が聞こえてくるときもあります。忙しいなかでも日本語学習に時間を割くその姿勢から、これまで学ぶ機会がなかった人たちの強いモチベーションが感じられます。

## 多文化なトピック

### 「外国語での運転免許試験について」

第一種免許(二輪・四輪)学科試験、仮免許試験、第二種免許学科試験の対応言語が下記の20言語に拡大されました。予約は不要で、当日受付時に希望する言語を選ぶことが可能です。

- ◆対応言語◆ アラビア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、韓国語、クメール語、シンハラ語、スペイン語、タイ語、タガログ語、中国語、ネパール語、ヒンディー語、ベトナム語、ペルシャ語、ポルトガル語、ミャンマー語、モンゴル語、ロシア語

※原付免許は英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語のみ対応しています。

詳しい情報・お問い合わせは、下記URLをご覧ください。

URL: [https://www.police.pref.miyagi.jp/menkyo/main/gaikokugo\\_siken.html](https://www.police.pref.miyagi.jp/menkyo/main/gaikokugo_siken.html) (日本語のみ)

MIAの国際理解教育支援事業では県内の小中学校等に外国人講師を紹介しています。このコーナーでは講師が自分の国を紹介する「とっておき」の方法をお伝えします。

### 第4回 ブラジル式のあいさつ

大槻 ヴァレリア ハルエ さん ブラジル連邦共和国



子どもたちと交流するヴァレリアさん

わたしのとっておきは、ブラジル式あいさつ講座です。当たり前ですが誰かと会ったらあいさつをしますよね。そのときにきちんと相手の目を見ていますか？ブラジルでは、歩いている時でも周りの人の顔をよく見えています。でも日本ではジロジロ見ると、失礼になることもあると知りカルチャーショックでした。そして日本ではお辞儀をたくさんしますが、視線をしっかりと交わすことは少ないような気がします。私たちカトリック教徒は、お辞儀は神様に向けてするものなのであいさつの時にお辞儀はしません。その代わりにしっかりと相手の目を見ます。ブラジルでは初対面の時、男性同士は握手、女性同士は頬を左右1回ずつくっつけることが一般的です。あとはハグもします。学校訪問では、子どもにブラジル流のあいさつを紹介します。最初は恥ずかしがったりしますが、違う文化を知る機会だと思えますし、あいさつはとても大事ということをお伝えしています。

初めてプログラムに参加した頃は、教えたい！という気持ちが強かったかもしれません。でも今は触れ合いや交流を通して、一緒に楽しみたいと思うようになりました。ある小学校で「ブラジルの豆は強いよ。日本で育つか植えてみて。」と種をあげたことがあります。ある1人の子が学校で種を植えて「本当に芽が出たよ！」と写真と手紙を送ってくれました。子どもには、この豆のように、自分の可能性が無限大で将来何でもできると知ってほしいですし、海外や色々なことに興味をもってほしいと思っています。

### みやぎの国際活動団体

### 栗原市国際交流協会 会長 浅沼政幸さん

2008年に設立されました。昨年度、宮城県知事表彰を受賞し、先達のこれまでの歩みとこれからへの期待と受け止めています。

誰もが気軽に海外の文化と触れ合えるような環境をつくるために、芋煮会や食の国際交流など様々な事業・行事を行っています。昨年2月の食の国際交流では、ネパール、中国、韓国出身の方々と一緒にそれぞれの国の料理を作り、食を通じた交流を行いました。民族衣装を着て伝統舞踊を披露してくれた方もいて、大変盛り上がりしました。

栗原市楽館総合支所の2階を会場に、日本人を対象とした英語、中国語、韓国語をそれぞれのネイティブ講師から学習できる講座を開講しています。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

■問い合わせ先：一迫公民館 栗原市国際交流協会事務局 大内 TEL: 0228-52-3141

来年2月には、毎年恒例の「栗原市国際交流フェスティバル」を開催します。ウクライナから石巻に避難している方のお話をお聞きするほか、市内在住の外国人との交流も予定しています。ぜひご参加ください。

#### 第15回栗原市国際交流フェスティバル

■日時：2025年2月23日(日) 11:00～15:00

■場所：ドリームパル 栗原市若柳総合文化センター ■会費：500円

■問い合わせ先：栗原市国際交流協会 国際交流フェスティバル実行委員会(若柳はさま会館内) TEL: 0228-32-6789



昨年の食の国際交流の様子

### サポーターの声

### 佐藤有紗さん MIA外国人児童生徒サポーター



9月から柴田町の槻木小学校でパキスタン人の児童をサポートしています。日本語がまったくできない子どもに日本語を教えるのは初めてで、日本で生まれ育った日本人の子どもに教えるのとは全然違うことに最初はとまどいました。日本語テキストの勉強だけではなくオンラインドリルを使ったりして試行錯誤をしています。オンラインのひらがな神経衰弱がお気に入りのようで、自分からやりたがります。最初のころはあまりにも日本語が分からなさ過ぎたのか、無表情なことが多かったのですが、最近は覚えた日本語の単語を使って自分から話すようになり、笑顔も見られて嬉しく思っています。

わたしは現在学生で、将来は教員になる予定なので、今後増えると言われている外国ルーツの子どもとのコミュニケーションの取り方など、よい経験を積むことができている。

### 賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格  
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費  
個人会員 / 1口 3,000円  
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典  
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)

- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法  
◎本協会あて御連絡ください。  
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



**倶楽部 MIA vol.136**  
編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号  
宮城県仙台合同庁舎7階  
TEL 022(275)3796  
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

